

保育養成校における
「ピアノ技術」の習得方法について
“Piano Pedagogy” for nursery-school teachers ;
including both piano and voice

八木橋 夏子
Natsuko Yagihashi

要約

幼児教育において、「ピアノ」は欠かせない存在である。保育者を志す学生への指導内容・方法の研究として、筆者は保育現場の現状を知るために幼稚園を訪問・見学し、また保育者へのアンケート調査を行った。

保育現場では「弾き歌い」「伴奏」「リトミック」など、ピアノを使った音楽活動が毎日行われており、アンケートの結果から保育者が「必要としていること」また「習得すべきこと」が見出された。そしてそれらの回答から、養成校にて初心者が習得すべき「音符やリズムなどの基礎的な知識」を「子どもの歌」を通して考察し、さらに保育現場で役立つ「コードの知識」で伴奏を簡易的にする方法や、身体に負担をかけずに行う「ピアノ奏法」について考察した。

現場の保育者は「子どもたちの歌が主役」と考え、いつも子どもの表情を見ながらピアノを弾き、語りかけるように歌っている。このことからまず、知識や技術を身につけてはじめて「ピアノを通してのコミュニケーション」が可能であり、保育者は子どもたちと日々の生活の中で、感情やイメージの世界を共有していることがわかった。

キーワード：幼児教育 保育者養成 ピアノ伴奏 弾き歌い 音楽教育

はじめに

「ピアノ」という楽器は様々な表現ができる楽器である。長年、幼児教育では情操教育のための音楽活動が行われており、ピアノは「歌とピアノ」という形で関わっていて、欠かせない存在となっている。そういったことから、保育者は子どもの豊かな感性を育み、またその感性を響かせることができる音楽の知識や、演奏技術を身につけておくことが必要不可欠である。

ただピアノが弾けるというだけではなく、実際の現場で活かせる学び方、ピアノ技術の習得方法について、保育養成校で学生の指導に関わっている立場から考察する。

第 1 章 「ピアノの表現能力」と「音楽の 3 要素」

保育現場での音楽活動で、ピアノは「歌の伴奏」、または伴奏しながら歌う「弾き歌い」という形で弾かれることが大変多い。「伴奏」とは主として西洋音楽で使われる音楽用語で、主な旋律を演奏する歌手、または奏者に対し、付随的な演奏をすることであり、楽器や歌唱の伴奏など様々である。伴奏の楽器としてはピアノやオルガン、ギター、最近では電子楽器などが使われている。「弾き歌い」とは、そのようなピアノ伴奏とともに、奏者自身も歌うことである。

他の楽器にはない「ピアノの特徴」は、一度に沢山の音を出すことができ、自由に強弱もつけられることである。「鍵盤楽器」ではあるが、鍵盤の奥にあるハンマーは、それぞれに張られた「弦を打つ」という動作から、「弦楽器」と「打楽器」の両方の特徴を併せ持った「打弦楽器」に分類されることも、ピアノの特徴である。そういったことから自由に奏法を使い分け、様々な表現をすることが可能になる。

保育現場では、歌いやすいように「メロディ」を右手で弾くことが多い。「メロディ」とは曲の主な流れ「旋律」であり、メロディを弾くと、子どもたちは安心して自然に歌うことができる。

また「メロディ」に合わせて「ハーモニー」も鳴らすことができる。「ハーモニー」とは複数の音が重なった「和声（和音）」のことで、音楽以外でも「色」や「味」において、「調和・一致」という意味で使われる。ピアノは 88 本の鍵盤があり高低の音域も広いので、多様なハーモニーを構成して鳴らすことが可能である。

またピアノは「打弦楽器」の特性を活かし、イメージに合わせて様々な「リズム」を表現することができる。「リズム」とは規則的なリズムから、アクセントによる不規則なリズムなど様々で、西洋音楽、ジャズ、民族音楽、日本であれば祭囃子の太鼓のリズムなど、ありとあらゆるジャンルで多種多様なリズムがある。

西洋音楽において「音楽の 3 要素」とは「メロディ（旋律）」、「ハーモニー（和音）」、「リズム」を表現する 3 つの要素のことであるが、このようにピアノという楽器はこの 3 要素すべてを備えている。「幼児期の子どもたちは、与えられたメロディ、ハーモニー、リズムをひとつの音楽として感じ、イメージを思い描き、想像を膨らませていく。優しい音や美しい響きには安心感をもって聴き、不思議な響きにはじっと耳を傾け、楽しく躍動感のある音には身体を動かす。このように音楽は計り知れない力で、聴覚の発達が著しい時期の子どもたちの感性と知性に働きかける」¹。このことから「ピアノ」という楽器が、豊かな感受性を育てる貴重な役割をしていることがわかる。

第2章 保育現場でのピアノを使った音楽活動

保育現場では様々な音楽活動が行われている。その中でピアノは欠かせない存在であり、保育者は毎日様々な曲を歌ったり弾いたりしている。現在、筆者は保育養成校にて学生にピアノを指導をしているが、現場で行われているピアノのレベルに到達するには大変難しいと日々感じている。

指導内容や指導方法の研究としてその現状を知るため、京都市内の幼稚園を訪問し、音楽活動やピアノへの取り組みの様子を見学、体験して、また保育者に「ピアノについて」のアンケート調査を行った。

第2章－1．園でのピアノを使った活動

(1) ピアノ伴奏・弾き歌い

A) 毎日の歌

朝、登園し子どもたちがそろった時には、あいさつの歌「おはよう」が歌われる(図①)。昼食の前には「おべんとうのうた」や「きゅうしょくのうた」、降園の時には「おかえりのうた」などが歌われ、園それぞれに決まったルーティンの曲がある。

「おかたづけのうた」は遊びを終えておもちゃなど片付ける時の歌で、曲を聴くだけで行動がスムーズに行える。また「こもりうた」は、賑やかな状態から静かにする時に使われ、曲が終わるところには子ども達は静かに落ち着いてくる。「行進曲」など元気な曲で整列することもある。

B) 季節の歌・手遊び・リズム遊び・テレビ番組の歌など

「季節の歌」は、季節感を感じたり行事への興味が養われる。昔から歌われる童謡であったり、朝の子ども番組の歌であったり、バリエーションが豊富である。季節ごと曲を分類すると、

- ・ 春～夏「チューリップ」「こいのぼり」「あめふり」「かたつむり」
- ・ 夏～秋「うみ」「とんでったバナナ」「アイスクリーム」「花火」
- ・ 秋～冬「とんぼのめがね」「虫のこえ」「赤とんぼ」「どんぐりころころ」
- ・ 冬～春「ジングルベル」「お正月」「ひなまつり」「1年生になったら」

などがよく歌われている。

「手遊び歌・リズム遊びの歌」は、保育者が見本となって手遊びをし、子どもの注目を集めたり、気持ちを落ち着かせたりする場面で多く用いられている。

例)「おはなしゆびさん」「大きなくりの木の下で」「手をたたきましょう」

「やきいもグーチーパー」「パンダうさぎコアラ」など

その他年間を通じて「となりのトトロ」「アンパンマン」など、子どもが大好きな「テレビ番組の歌」やアニメ、映画の曲も歌われている。

上記のように保育では子どもと歌う機会が沢山あり、それはほとんど両手による「ピアノ伴奏」か「弾き歌い」によって行われる。そして歌う時はいつも、保育者は子どもの様子を見ながら弾いている（図①～④）。ピアノが壁に向けて設置されていることが多いが、子どもに背を向けている場合でも、保育者は横を向いたり、後ろを向いたり、メロディを止めることはない。また、まだ子どもたちが覚えて日が浅い時や歌詞が心配な時には、歌詞を前もって言いながら歌っている。

（２）リトミックでのピアノ

リトミックとは、音楽を通して心や身体の発達を促す教育法で、リズムに合わせて全身で表現したり、楽器を使って音を出したりする。筆者が訪問した幼稚園では、リトミックの講師による指導は全てピアノを使って行われ、年少クラスと年長クラスを見学、体験した。

どちらのクラスも冒頭、友達同士の「あいさつ」から始まる。歩く速さのピアノのリズムでぐるぐると歩いた後、先生の合図で二人組みを作り、手を合わせ握手をし、次々とちがった二人組みを作る。子どもたちは「おともだちをつくる」というコミュニケーションで一体感を感じ、クラス全体が楽しくリラックスした雰囲気になる。この時、指導者はいつも様子を観察し、楽譜や鍵盤をほとんど見ることはない。

楽器を使用したリトミックは年齢に応じた内容で、年長クラスは「カスタネット」「鈴」「タンバリン」を使い、音符の長さを「動物の鳴き声」に例えて楽器ごとに役割を決め、ピアノの音に合わせて「楽器あそび」が行われていた（図②）。

年少クラスではピアノのリズムを真似てたたき「まねっこあそび」として、一人ずつ「リズムスティック」を持って行われ、２本の木のスティックを「トントン」とたたいて音を出したり、床をたたいて音を出すのだが、スティックの扱いや安全にも配慮しなくてはならないので、指導者はこの時もたえず様子を観察し、ピアノの手を止めることはなかった（図③）。

（３）音楽会・発表会・おゆうぎ会への取り組み

保育園、幼稚園では日々の活動の発表として、音楽会や発表会、おゆうぎ会が開催されることが多い。合唱、合奏、劇、ダンスなど舞台上で発表され、ここでもピアノが多く使われている。訪問先の園では次の月に行われる「表現発表会」の練習が行われていた。年少クラスから年長クラスまですべて「おゆうぎ」などの発表であるが、年長クラスは「ミニオペレッタ」の発表で、本番ではすべての音楽が、担任の保育者が弾くピアノによって行われる。実際の練習を見

学したが、オープニング、劇中の BGM、合唱や踊りの伴奏、効果音など、多種多様な曲を約 30 分の間弾きながら、劇の指導をしていた（図④）。



図① 年長クラス「朝のあいさつ」



図② 年長クラス
「楽器を使ったリトミック」



図③ 年少クラス
「リズムスティックを使ったリトミック」



図④ 年長クラス
「おゆうぎ会の練習」

第 2 章－ 2．保育者へのアンケートの質問事項と回答

今回、訪問先の幼稚園の保育者 21 名にアンケート調査を実施し、回答を得た。

【保育現場での「ピアノ」に関するアンケート】

「質問 1」音楽活動全般における「ピアノ」について

① 「とくに必要」と思うことは何ですか（3 つ回答）。

② その中で今「習得したい」項目があればお答えください（2 つ回答）。

表 1 「質問 1」の回答

質問事項	①とくに必要	②習得したい
正しく音符やリズムが読める知識	19 名	15 名
保育の歌をできるだけ練習しておくこと	18 名	6 名
音符（ドレミ）が速く読めること	10 名	10 名
正しいピアノの弾き方を身につけること	6 名	3 名
和音コードの理解	3 名	8 名
その他	7 名	0 名

「その他」回答

- ・ 間違っても止まらずに弾くこと（4 名回答）
- ・ 自信を持って弾くこと
- ・ 保育者が楽しんで弾くこと
- ・ 子どもが歌いたいと思えるような弾き方で弾くこと

「質問 2」「弾き歌い」において

- ① 「とくに大切」だと思えることは何ですか（3 つ回答）。
- ② その中で今「習得したい」項目があればお答えください（2 つ回答）。

表 2 「質問 2」の回答

質問事項	①とくに大切	②習得したい
子どもたちの表情を見ながら弾くこと	20 名	6 名
先生自身が楽しく歌うこと	17 名	4 名
子どもの好きな曲を選ぶこと	10 名	2 名
間違えずに弾いて歌うこと	6 名	14 名
左手で和音やコードが弾けること	4 名	6 名
短期間で新しい曲が弾けるようにすること	4 名	10 名
その他	2 名	0 名

「その他」回答

- ・ 伴奏ができなくても、メロディは間違えずにきちんと弾くこと（2 名）

「質問 3」「ピアノ伴奏」において

- ① 「とくに大切」だと思えることは何ですか（3 つ回答）。

② その中で今「習得したい」項目があればお答えください（２つ回答）。

表３ 「質問３」の回答

質問事項	①とくに大切	②習得したい
最後まで止まらないで弾くこと	19 名	10 名
最後まで一定のテンポで弾くこと	17 名	12 名
どこからでも弾き始められること	11 名	7 名
子どもの歌声に合わせて、音の強弱など、臨機応変に対応すること	10 名	7 名
左手で和音やコードが弾けること	4 名	4 名
ペダルをつけて演奏できること	1 名	2 名
その他	1 名	0 名

「その他」回答

- ・ 難しい曲にも何度もチャレンジすること

「質問４」

その他に「気をつけていること」や「工夫されていること」があればお聞かせください。

「弾き歌い」

- ・ 右手のメロディだけでも止まらないようにしている（４名）
- ・ 間違えても止まらずに弾き、歌うようにしている（３名）
- ・ 歌詞を伝えながら歌うので、余裕を持ってピアノが弾けるように
沢山練習している（２名）
- ・ 歌詞はわかりやすくゆっくり、ていねいに歌い、聞き取りやすいようにしている（２名）
- ・ コードを理解できるようにすること（２名）
- ・ 伴奏が難しい時は、短期間で弾けるように左手でコードを弾くこと
- ・ 歌詞を前もって言うこと

「ピアノ伴奏」

- ・ 子どもたちの歌が主役なので、伴奏がメインにならないようにしている（３名）
- ・ 途中で止まらないこと（３名）
- ・ ペダルをつけて曲を盛り上げること
- ・ 左手が大きくなりすぎないようにしている

- ・ 伴奏の楽譜を一気に譜読みしようとせず、少しずつ練習している
- ・ 一定のリズムで弾けるように意識している
- ・ 時々人に聞いてもらい、緊張しても弾けるようにしている
- ・ 音を覚えるのが難しく、発表会などで楽譜に頼ってしまうので、音を歌いながら練習している

「質問 5」「リトミック」において

① 大切なことは何だと思いますか

- ・ 「楽しい音楽遊び」を通して音楽の基礎能力を身につけ、向上心や想像力、協調性を高め、表現する力を育てること
- ・ 友達と一緒に表現することで、楽しさや喜びを知ること
- ・ 夢中になれること（集中力）
- ・ 達成感が感じられるようにすること

② どんなことを工夫されていますか

- ・ 年齢と一人一人の能力を確認しながら、活動のねらいを達成できるようにしている
- ・ いつも子どもの歩幅やスピードを見て、体調などにも気を配っている
- ・ イメージやストーリーを感じやすく伝えるようにしている
- ・ 日常生活の中で耳にする BGM やクラシック、映画音楽のメロディを使って、イメージが広がるようにしている
- ・ 「楽しかった」と感じられるように心がけている

「質問 6」

以上の回答以外に、今後ご自身が「習得したい」「学びたい」ことなどがあればお聞かせください。

- ・ 子どもたちが好きな歌（アニメ、流行りの歌、手遊び歌）に、左手（伴奏）をつけられる技術を習得したい（3 名回答）
- ・ 子どもたちが好きな歌は、練習して常に弾けるようにしておきたい
- ・ 保育の現場で活かせる手遊びや題材を、より多く知っておきたい
- ・ 楽譜を見てすぐ弾けるようになりたい

以上が現役保育者の回答である。どれも現場の保育者ならではの意見であり、養成校の学生にとって大変参考になる。ほとんどの保育者が、「子どもが楽しんで歌えるように」「わかりや

すく」「子どもの好きな曲を歌う」「歌詞を前もって言う」など子どもを主体としたコメントをしており、子どもの育ちに真摯に取り組んでいることがわかった。

「質問1」の回答で、多くの保育者が「正しく音符やリズムが読める知識」（19名）、「保育の歌をしっかりと練習しておくこと」（18名）を必要としており、また「習得したい」とも回答していることから、今も日々練習の努力を重ねていることがわかる。また「質問2」の回答では、ほぼ全員が「子どもたちの表情を見ながら弾くこと」（20名）を必要としており、また同時に「間違えずに弾いて歌うこと」（14名）を習得したいと回答していることから、楽譜や鍵盤を見ずに弾けるまで、繰り返し練習することが必要であることがわかる。

「質問3」では「最後まで止まらないで弾くこと」（19名）、「最後まで一定のテンポで弾くこと」（17名）を「とくに大切」とし、また「質問4」では「子どもたちの歌が主役なので、伴奏がメインにならないようにする」、また「歌詞をわかりやすく伝える」など歌詞に関する回答も多く、いつも子どもたちの歌が主体であると考えている。

その他「和音コードを理解すること」「左手でコード伴奏が弾けること」を習得したいという回答も多い。園長先生との会話において、「楽譜の伴奏が難しくても、左手でコードを弾くことができれば、子どもたちは歌うことができる。コードを習得すればどんな歌でも伴奏が可能になる」とご自身の経験からおっしゃっていたことから、「コードの理解」が伴奏の手助けになることがわかる。これらのことをふまえて、保育者養成校にて身につけておくべき基礎的な知識や、ピアノ奏法について考察する。

第3章 保育者が習得してほしい知識とピアノ奏法

保育現場において、保育者はピアノを弾きながら子どもを楽しく歌わせたり、一緒に歌うことができることが理想である。しかし筆者が関わっている保育養成校では、ピアノの経験が浅い学生が多く、正しく読譜できず、間違ったメロディで弾いてしまうことが多い。また正しい奏法ができなければ指が動きにくい、また速い動きができないなど問題点が次々と出てくる。実習先においても「上手く弾けなかった」など学生から報告を受けることも多い。

音楽の知識を得て正しく演奏するためには、「楽典」（音楽の文法）を学び、またピアノ教則本を使用した練習が必要である。しかしそれと同時に、現場で使われている「子どもの歌」を通して、音符やリズムが実際どのように使われているか、初歩的な段階から理解を深めながら実践することが必要不可欠であると考え。基礎的な知識においては養成校の多くの学生が当然知っている内容ではあるが、アンケートの結果も参考に、今一度確認する意味において習得方法について考察する。

第3章－1.「読譜」のための基礎的な知識

(1) 音名

音名とはイタリア語で「ドレミファソラシド」のことである。日本語では「ハニホヘトイロハ」、英語では「CDEFGABC」で表され、国によって呼び方が異なる。日本語は調性を示す時にも使われ、英語はコードネームを示す時に使われるので、どれも知っておく必要がある。

「楽譜の5本の横線は音の高さを示す、目盛りのようなものである」2。そして「早く5線に慣れて、その間隔を目でつかんでいけるようにしなくてはならない」3。

(2) 音符・休符・リズム

「音符」

「音符は音の高さと同時に、長さも表している」4。



4分音符1拍を1秒とし、時計の秒針を見ながら上の音符を手でたたくとわかりやすい。

音符の長さを数字として理解することは当然必要であるが、歌の場合あくまで歌詞、言葉とつながっているものなので、曲それぞれの言葉と結びつけて身につけるようにしたい。最も基本的な4分音符を使った曲として「春の小川」「きらきらぼし」「君が代」などがある。音楽はこのような4分音符だけのものであっても、フレーズ（音と音とのつながり・音楽の流れやメロディのまとまり）を意識し、「歌った通りに鍵盤上に再現していく、という方法をとらなければならない」5。

譜例1「春の小川」6

作詞：高野辰之／作曲：岡野貞一



メロディを練習をする時は、実際の速さで「階名（ミソラソ）を声に出して弾くこと」、そしてどのように弾くかをイメージして「歌詞を歌いながら弾くこと」のどちらも必要である。

「休符」

休符は「春の小川」のように、曲のフレーズの自然な区切りとして使われたり、曲の最後などに使われることが多いが、メロディの途中に使われることもある。その場合、「休符のところで一瞬息を止めるような間が生まれ、緊迫感が作られたり」7、リズムカルな雰囲気になる場合が多い。「幸せなら手をたたこう」では、歌詞の合間の「4分休符2つ」の箇所を手拍子をしている。

譜例 2 「幸せなら手をたたこう」 8

日本語歌詞：木村利人／アメリカ民謡



「リズム」

「リズムとはさまざまな長さの音が組み合わさったもので、音楽にはいろいろなリズムがちりばめられている」9。そして組み合わせで、何通りものリズムを作ることができる。

リズムとは「動き」なので歌詞とともに覚え、長さの感覚を身に付けるようにしたい。

『幼児の音楽教育』10の教材曲集 90 曲（手遊び曲を含む）で使われている音符とリズムを調べて見ると

- a) 「4 分音符と 8 分音符」で構成されている曲（49 曲）
- b) 「付点 8 分音符+ 16 分音符」（スキップのリズム）が使われている曲（30 曲）
- c) 「16 分音符」が連続する曲
- d) 「付点 4 分音符+8 分音符」や「シンコペーション」

以上のように、主に(a)(b)のパターンが圧倒的に多いことがわかる。(c)(d)のパターンは数多くはないが、リズムが特徴的で昔から親しまれている曲に多くみられる。

その他の教材曲集11も含めてリズムパターン別に分類してみた。

- a) 「4 分音符と 8 分音符」で構成されている曲

譜例 3 「大きな古時計」 12

作詞：保富康午／作曲：ワーク



譜例 4 「とんでったバナナ」 13

作詞：片岡輝／作曲：桜井順



—その他の例—

「春がきた」「手をたたきましょう」「汽車ぽっぽ」「ふしぎなポケット」「ちゅうりっぷ」
 「お星さま」「たなばたさま」「むすんでひらいて」「うみ」「森のくまさん」
 「大きなくりの木の下で」「こいのぼり」「ぶんぶんぶん」「やぎさんゆうびん」「夕やけこやけ」
 「にじのむこうに」「とんぼのめがね」「虫のこえ」「むすんでひらいて」「お正月」「ひなまつり」など

その中でも「おもちゃのチャチャチャ」のように 8 分音符が連続すると、歌詞に軽快感が出る。

譜例 5 「おもちゃのチャチャチャ」 14 作詞：野坂昭如／補作詞：吉岡治／作曲：越部信義



—その他の例—「犬のおまわりさん」「たきび」など

b) 「付点 8 分音符 + 16 分音符」(スキップのリズム)

このリズムは a) のような音符の組み合わせというよりも、セットで単体となった「スキップをするように弾む独特のリズム」である。まず実際にスキップをしながら歌ってみて、楽しく弾む感覚を身体で感じる事が大切である。保育生活で毎日歌われる「おはよう」「おべんとう」「おかたづけ」「おかえりのうた」、また「幸せなら手をたたこう」(譜例 2) もこのリズムで構成されている。

「あめふり」のように全体を通してリズムが連続している曲や、「おべんとう」のように 1 拍目のみに使われている曲など様々である。

譜例 6 「雨ふり」 15

作詞：北原白秋／作曲：中山晋平



譜例 7 「おべんとう」 16

作詞：天野 蝶／作曲：一宮道子



また「3 連音符」と組み合わせた例として「おばけなんてないさ」「せかいじゅうのこどもたちが」などがあり、言葉に躍動感がでる。

譜例 8 「おばけなんてないさ」 17

作詞：横みのり／作曲：峯 陽



保育教材全体的にも、この「スキップのリズム」が使われている曲が多数あることがわかる。

—その他の例—

「おつかいありさん」「うさぎのダンス」「せかいじゅうのこどもたちが」「手のひらをたいよ

うに」「あんたがたどこさ」「ミッキーマウスマーチ」「どんないろがすき」「あめふりくまのこ」
「やきいもグーチャーパー」「おすもうくまちゃん」「北風こぞうの寒太郎」
「どんべさんのあかちゃん」「おはなしゆびさん」「小鳥のうた」「おちゃらか（手遊び）」など

c) 「16分音符」が連続して使われている曲

「16分音符」は4つで4分音符の長さとなり、まとまりとして使われることが多い。「どんぐりころころ」「トマト」「小さい秋みつけた」「こおろぎ」「アンパンマンのマーチ」など、歌詞にスピード感が出る。

譜例 9 「どんぐりころころ」 18

作詞：青木存義／作曲：梁田 貞



d) 「付点4分音符+8分音符」と「シンコペーション」

「付点4分音符+8分音符」は「ぞうさん」「ドレミのうた」「おはながわらった」「きよしこの夜」「線路はつづくよどこまでも」（譜例 14）の、歌の冒頭のリズムである。

譜例 10 「ぞうさん」 19

作詞：まどみちお／作曲：團 伊玖磨



「シンコペーション」とは「8分音符+4分音符+8分音符」がセットになったリズムである。「おかあさん」「ピクニック」「犬のおまわりさん」にも使われていて、リズムが実際に言葉で語っているような変化をつけている。

譜例 11 「おかあさん」 20

作詞：田中ナナ／作曲：中田喜直



「おかあさん」と呼びかけるところが「シンコペーション」で、「なあに」と応えるところは、前述の「ぞうさん」と同じリズムである。

このように、リズムは歌詞と密接に結びついた「言葉の動き」なので、曲とともに長さの感覚を身体で身に付けるようにしたい。

(3) 拍子・リズム感

「音の『高さ』や『長さ』に、一定のまとまりやサイクルが加わると、心地よいノリがうま

れ、音楽になる」21。そして「『拍』とは一定の感覚できざまれた音楽の鼓動のようなもので、その拍を心地よくまとめたものを『拍子』という」22。これはその曲が「何拍子の曲であるか」と「どの音符を1拍に決めたか」を示している。

子どもの歌で多く使われているのは、主に「4分の2拍子」「4分の3拍子」「4分の4拍子」であるが、記号によって強拍（強く感じる部分）、弱拍（弱く感じる部分）が変わってくる。以下、○の数字が強拍である。

- **2拍子**は「①. 2. ①. 2..」と数えるが、「タントン タントン」と行進曲（マーチ）で歩いているような、肩たたきをしているような感じで数える。

例)「ちゅうりっぷ」「とんぼのめがね」「ぶんぶんぶん」など

- **3拍子**は「①. 2. 3. ①. 2. 3..」と数え、ひとつの強拍とふたつの弱拍から成っている「ワルツ」のリズムである。右手で空中に大きな三角形を描きながら歌うと3拍子の感覚がつかみやすい。

例)「ぞうさん」「かっこう」「うみ」など

- **4拍子**は「①. 2. 3. 4. ①. 2. 3. 4..」と数え、2拍子と比べて1小節の歌詞のフレーズが長くなる。

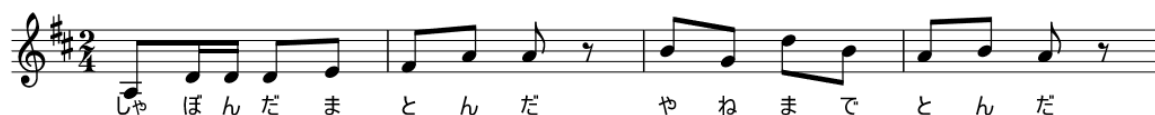
例)「犬のおまわりさん」「きらきら星」「大きな古時計」など

- **6拍子**は「8分の6拍子」のように8分音符を1拍とした拍子で、「①. 2. 3. ④. 5. 6..」と数え、心地よい2拍子にも感じられる。幼児の歌では数多くはないが、「思い出のアルバム」「みかんの花咲く丘」などがある。この拍子を音楽的に感じるためには、小さなボールを持って右手と左手を交互に「(右へ) ① 2 3 (左へ) ① 2 3」と、ゆりかごが揺れるように3拍ずつキャッチボールするとわかりやすい。

2拍子と4拍子は似ているために、区別なく演奏してしまいがちでなので、特に気をつけておきたい。「しゃぼんだま」は4分の2拍子である。2拍子を感じて歌うと「シャーぼんだま・トんだ」の「シャ」と「ト」の2か所に強拍がくるが、4拍子の感覚で歌うと、「シャーぼん・ダま・トン・ダー」と4か所に拍の頭がきて重い印象になってしまう。

譜例 12「しゃぼんだま」23

作詞：野口雨情／作曲：中山晋平



2拍子感覚をつけるために、1拍目を手をパーにし、2拍目は手をグーにして、歌いながら手をたたき練習をすると2拍子の感覚が感じられるようになってくる。このように拍子によって感じ方が異なるので、必ず最初に確かめて、拍子特有の「きざみ」や「揺れ」を感じながら

弾くことが大切である。

(4) 調性とコードネーム (和音)

「調性」

音楽はどの曲にも調性（キー）があり、それは「ある音を基本の音（主役）とし、それ以外はどういう音の構成になっているか」を示すものである。主役とは音楽用語として正しくは「主音」という。「ハ長調」では、日本語「ハ」=イタリア語「ド」=英語「C」の音が主音となって「音階」を作っている。主音はその曲の中で最も頻繁に使用され、最後の音として曲を締めくくることが多い。

カラオケなどで自分の声の高さが合わない場合に「キーを上げる」「キーを下げる」というのは調性を変えているということである。

楽譜のはじめに書かれている調号は、何調であるかを表している。調性は「長調（メジャーキー）」と「短調（マイナーキー）」が必ずセットになっており、それぞれ12種類ずつ、合わせて24種類あるが、「現在保育で用いられている子どもの歌は、子どもの声域並びに保育者の演奏のしやすさ等から『ハ長調』、『ヘ長調』、『ト長調』、『ニ長調』のものがほとんどである」**24**。そしてこの調性やコードから、「曲のつくりを読む」**25**ことができる。

「コードネーム」

様々な教材曲を取り上げる時、右手のメロディだけで伴奏がない場合がある。そのような場合に威力を発揮するのがコードの知識である。コードによる伴奏は効果的で、多くの楽譜にはコードネームが記されている。「それはいうまでもなくその方が利用者にとって便利だからである」**26**。その時々状況に応じて、即興的に簡易伴奏ができることは重要である。

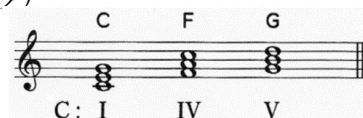
「コードネーム」とは、音階のそれぞれの音を基本とし、その上に2つ以上の音を重ねて和音にし、その一つ一つに名前をつけたものである。そして重ね方により種類があり、明るい響きは「メジャーコード」、淋しい響きは「マイナーコード」など聴くだけで区別ができ、「ルールがわかっているならば自由にコードを弾くことができる」**27**。まずは「主要3和音」、及びその構成和音となる「コードネーム」を理解し、「転回形」、「セブンスコード」についても身につけておくことが望ましい。

a) 基本のコード

「主要3和音」とは、音階それぞれの音を根音（1番下の音）としてその上に音を2つ重ねて和音を作った場合、1番目の和音をI、4番目の和音をIV、5番目の和音をVとした3つの

和音のことで、長調の主要 3 和音はいずれも明るい「メジャーコード」である。

ハ長調の主要 3 和音（基本形）



和音の上下を回転させて「IVをドファラ」「Vをシレソ」（転回形）にすると、「Iのドミソ」から移動する際に、手の移動が少なく弾きやすい形となる。

表 1. ハ長調の「4 種類の基本コード」と「弾きやすい形」

ハ長調の場合	和音の種類	構成音	コード	弾きやすい形
1 番目の和音	I の和音	ドミソ	C	ドミソ
4 番目の和音	IV の和音	ファラド	F	ドファラ
5 番目の和音	V の和音	ソシレ	G	シレソ
5 番目の和音上のセブンスコード	V ₇ の和音	ソ シ レ フ ァ	G ₇	シファソ

「セブンスコード」とは、和音の上にさらに音を重ねた「4 つの音」の構成で、ハ長調の場合、「G」コードの上に 1 つ音を重ねた「G₇（ジーセブン）」として「主要 3 和音」と同様によく使われる。他の調性も同様に、表 5 の「4 種類の基本コード」を弾くことができれば、多くの曲を伴奏することができる。コードが弾けるようになったら、和音を同時に弾くのではなく「ドソミソ・ドソミソ」など各音を順番に弾く「分散和音」にすると、曲に動きが出るので少しずつ伴奏のアレンジの幅を広げて行くことができる。

b) その他のコード

「ハ長調」は基本の調であるが、教材曲集 28 を見てみると、82 曲(手遊び曲を除く)のうち「ヘ長調」が 29 曲と大変多く、次に「ハ長調」が 26 曲、「二長調」が 14 曲となっている。基本的な左手の伴奏は、以下のコードが習得できれば可能になる。以下の表以外にもコードの種類はあり、黒鍵を使う和音もあるが、基本の「主要 3 和音」と規則性は全く同じなので、まずそれぞれの調の「4 種類の基本コード」を「手の形」で覚えて習得することが望ましい。また曲集の中で「短調」の曲は全体で 1 曲と少なく、ほとんどが明るい「長調」の曲であることがわかる。

表 2 教材曲集 82 曲の「調性の分類」と各調の「4 種類の基本コード」

調性	曲の数	I	IV	V	V ₇
○ハ長調	26 曲	C	F	G	G ₇
○ヘ長調	29 曲	F	B	C	C ₇
○ニ長調	14 曲	D	G	A	A ₇
ト長調	8 曲	G	C	D	D ₇
変ロ長調	2 曲	B	E $\flat$	F	F ₇
変ホ長調	2 曲	E $\flat$	A $\flat$	B $\flat$	B $\flat$ ₇
ホ短調	1 曲	E m	A m	B m	B m ₇

以下、保育全般（他の曲集を含む）でよく歌われる歌の調性別分類である。

● ハ長調の歌

「春がきた」「春の小川」「おかあさん」「小鳥のうた」「アイアイ」「どんぐりころころ」
「とんぼのめがね」「おもちゃのチャチャチャ」「こおろぎ」「虫のこえ」「大きなくりの木の下で」
「もりのくまさん」「世界中のこどもたちが」「思い出のアルバム」など

● ヘ長調の歌

「チューリップ」「ちょうちょう」「かわいいかくれんぼ」「ぞうさん」「大きなたいこ」「月」
「クラリネットをこわしちゃった」「ぶん ぶん ぶん」「まっかな秋」「もみじ」「まつぼっくり」
「やぎさんゆうびん」「ジングルベル」「あわてんぼうのサンタクロース」「おもちゃのマーチ」
「お正月」「1 年生になったら」「クラリネットをこわしちゃった」など

● ニ長調の歌

「あめふりくまのこ」「あくしゅでこんにちは」「犬のおまわりさん」「こいのぼり」「おかあさん」
「おつかいありさん」「おなかのへるうた」「カレンダーマーチ」「しゃぼんだま」
「みんなともだち」「赤とんぼ」など

● ト長調の歌

「大きな古時計」「線路はつづくよどこまでも」「うみ」「山の音楽家」「七つの子」
「せかいじゅうのこどもたちが」など

● 短調の歌

「小さい秋みつけた」「君をのせて」「うれしいひなまつり」など

コード進行の「規則性」の理解を深めるためにも、同じ調性の曲を選んで練習することも必要である。

(5) 強弱記号・アーティキュレーション

楽譜には作曲者が表現したいことを伝えるために、「強弱記号」や「アーティキュレーション」などが書かれていて、そこから「曲の表情を読む」**29**ことができる。音符ばかりに目が行ってしまいがちであるが、表示された指示も理解して演奏したい。

「強弱記号」

強弱記号には「強さ」を示す「f(フォルテ)」や、「弱さ」を示す「P(ピアノ)」がある。「強く」「弱く」など説明されることが多いが、決して「音量」のことだけ示しているのではない。「強さ、弱さなどと同時に、曲の雰囲気、感情、気分、重さや軽さ、遠近感なども示している」**30**。

● f(フォルテ)

(例)・嬉しい感じ・楽しい感じ・大きな声を出す感じ・怒った感じなど

● p(ピアノ)

(例)・優しい感じ・小さくかわいい感じ・悲しい感じ・静かな感じなど

歌の場合、歌詞の内容によって情景もイメージできるので、様々な表情がつけられることがわかるはずである。

強さの変化を表す記号には「cresc クレッシェンド(だんだん強く)」「dim ディミヌエンド(だんだん弱く)」がある。音量の変化だけでなく、「(cresc) 喜び、悲しみが高まる感じ」や「(dim) だんだん遠のいていく感じ」など様々なニュアンスをイメージすると、さらに表現が深まる。

「アーティキュレーション」

アーティキュレーションとは、「表情をつけて、演奏を生き生きさせるための『演奏技術』を示した記号のことを言う」**31**。例えば音符の下や上に点を書いてあると、「スタッカート(その音を短く切って)」である。ボールが跳ねるように短く切って弾いたり、雨のしずくが落ちるようにやさしく切って弾いたり、歌のイメージに近い演奏ができると良い。

譜例 13「証城寺の狸囃子」**32**

作詞：野口雨情／作曲：中山晋平

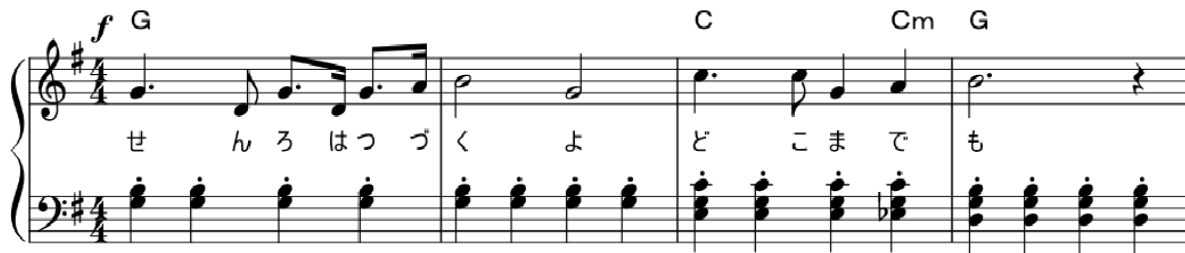


この曲は楽しくユーモアのある歯切れ良い作品で、「スタッカート」が歌の楽しさと軽快さをいっそう深めている。

「線路はつづくよどこまでも」のピアノの左手は、すべてスタaccatoで構成されている。また「f (フォルテ)」の記載もあるので力強く、コードで伴奏する時も同様に前向きで元気に演奏したい。

譜例 14「線路はつづくよどこまでも」 33

作詞：佐木 敏／アメリカ民謡



その他「スラー」「レガート」「アクセント」などのアーティキュレーションもよく使用される。常に気を配り、生き生きとした演奏を心がけたい。

(6) レパートリーを広げる

必要な知識、読譜の仕方がある程度わかるようになったら、その知識を応用していろいろな曲に挑戦し、どんどんレパートリーを増やして行くことも必要である。

保育者は、昔から歌い継がれている童謡や季節の歌を主とするほか、「子どもが好きな歌」「興味のあるアニメや流行り歌」にも考慮して選曲していることがわかる。また、第2章アンケート「質問1」においても多くの保育者が、「**保育での歌をできるだけ練習しておくこと**」が必要であると回答している。書店や楽器店、また図書館には沢山の楽譜集が置かれている。簡単な伴奏でメロディにドレミが書いてあるもの、伴奏がつけられているもの、流行りの歌が載っているものなど、自分に合わせた教材集を見つけて練習に取り組むことが大切である。

子どもたちは様々な曲を歌うことで、物語を読むようにどんどんイメージの世界を広げていく。また、強弱や表情をつけた伴奏により、さらに自由に歌えるようになることは言うまでもない。それと同時に保育者自身も自由にピアノが弾けることが理想である。次の項で、ピアノの基本的な弾き方について考察する。

第3章－2. 基本的なピアノ奏法

保育者がピアニストのように本格的な奏法を究める必要はない。しかし弾けるようになるためには、繰り返し練習が不可欠であり、身体に負担をかけずに行うことが重要である。また正しい指の使い方で、明瞭な音やリズムで演奏することも必要である。

（１）座り方

ピアノに向かうと手のほうに注意を集中しがちであるが、それよりも重要なのはまず、「身体が安定するように座る」という動作である。まず、ピアノに向かって中央に椅子を置いてやや浅く腰掛け、腰に重心を置いて足は楽にし、つま先からかかとまで足裏を床につける。そしてリラックスして肩や腕の力を抜き、ゆったり安定した複式呼吸ができるように、腰から背中を真っ直ぐにして下腹部に意識を持つ。

椅子の高さは、肩から、ひじ、前腕、手首から指へと重みが自然に下り、すべての重みが指先に感じられるように調整し、鍵盤からの身体の距離は、手が左右に十分に伸びるように位置をとる。このように、ひじの高さと位置にはいつも気を配っておく。

演奏を始めたら、上半身は自然な状態で重心を保つよう心がける。姿勢を固定したり、むやみに身体を動かしたり、首やひじで拍子をとらないようにし、バランスのとれた姿勢を保つようにする。

（２）手のフォームと指使い

ピアノには 88 本の鍵盤があり、打鍵すると鍵盤につながったハンマーが動いて、それぞれの弦(ピアノ線)を下から打つ。音を出すことは簡単ではあるが、手や指、腕などに負担をかけないフォームが必要である。美しい音を出すためには、自然に手を鍵盤の上に置き「親指と人差し指の間にゆるやかな楕円形を作った形」が基本である。必要以上に指に圧力をかけて、ぐいぐいと押すように弾いてしまうと、速い動きや自由な演奏ができないので、つねに「力を抜いた状態でピアノを弾く」ことを心がけたい。

楽譜に書かれた運指（指使い）の通りに弾くことも大変重要である。運指はスムーズに指の運びができるように書かれているので、読譜をする最初の中から気をつけなければならない。無理に手首やひじが曲がった不自然な弾き方にならないよう、自分に合った運指を考えることも必要である。

（３）ペダル

ピアノには 2 本、もしくは 3 本のペダルがあり、右のダンパーペダルは最も多く使用するペダルで、「鍵盤を鳴らした直後に踏むのが普通である」**34**。踏んでいる間は指を鍵盤から離しても音が鳴り響いて、弾いた音を長く持続させることができ、カラオケの「エコー」と同様の効果がある。踏み方を間違えると音の響きが混ざってしまうので、効果的に使えるように踏み替えるタイミングの練習が必要である

(4) ピアノで歌い、自分の耳で聴く

楽譜を読みながらピアノを練習する時、音やリズム、指使いばかりに注意を向けながら練習をしていると、学習者自身が何を弾いているのか理解できていないことがある。そのために、ひとつひとつの音や「音の動き」を感じ、メロディを歌いながら意識的に練習することが重要となってくる。

そして、それと同時に大切なことは「自分の弾いている音を自分自身で聴く」ことである。時には自分の演奏をスマートフォンなどで録音したり、動画撮影をして客観的に捉えることも必要である。それがまず最初の「音楽と自分とのコミュニケーション」であり、一緒に歌う「子どもたちとのコミュニケーション」にもつながっていく。

第4章 コミュニケーションとしてのピアノ

第3章までに考察した基礎的な「知識や奏法」は当然必要であり、習得すればピアノを弾くことは可能である。しかし、それだけでは子どもたちが心から楽しんで歌うことができない。

第2章のアンケートの回答からも、保育者はいつも子どもたちと、歌とピアノを通してコミュニケーションをしていることがわかる。このことから、子どもたちが心身ともに「楽しさ」や、先生や友達と一緒に「歌ったり、身体を動かす喜び」を感じられるように弾くことが、必要である。

(1) メロディに表情をつける

メロディや伴奏に表情をつけることで、より音楽的な表現をすることが可能である。しかし間違えずに演奏することばかりに関心が向かってしまい、そのような表現をすることができない場合が多い。メロディと歌詞から曲をイメージし、感情を自由に表現することで、子どもたちのイメージが豊かになることは言うまでもない。

(2) テンポ（速さ）・大きさの工夫

保育者自身が弾きやすい速さで弾いたり、止まったりすると、子どもたちは歌うことができない。多くの保育者がアンケート「質問3」、「質問4」で「最後まで止まらないで弾くこと」「最後まで一定のテンポで弾くこと」を「とくに大切」としていることから、「子どもたちが歌いやすい速さ」を最優先に考える必要がある。一定の速さで弾く練習をするためには、「メトロノーム」を使った練習が効果的である。

また保育者はいつも「子どもたちの歌が主役」と考え、ピアノがメインにならないように配

慮していることから、むやみに大きな音で弾かず、いつも全体の声とのバランスを考慮して弾く必要がある。

（３）子ども達の様子を見ながら演奏する

現場での保育者はいつも、様子を見ながら笑顔で１人１人に問いかけ、語りかけるように歌っている。しかし慣れていない学生は、楽譜を必死で見ながらピアノを弾くことに専念し、全く顔を上げることが出来ないことがある。教室のピアノの配置によっても子どもたちが自分の視野に入らない場合も多いが、アンケート「質問２」でほとんどの保育者が「**子どもの表情を見ながら弾くこと**」を「とくに大切」としている。横を向きながら、また後ろを向いて練習するなど、いろんな状況をシュミレーションした練習を何度もすることが必要である。

以上の内容をすべて実践することは容易なことではない。しかし保育者は「知識と技術」を習得しているからこそ、「ピアノを通してのコミュニケーション」が可能で、子どもたちと一緒に日々の生活や季節を感じ、また感情やイメージの世界を共有していることがわかった。

また、保育者は「**先生自身が楽しく歌うこと**」をとくに大切としている。筆者が見学した保育の場ではどの保育者も楽しく歌い、子どもたちも生き生きと身体を弾ませ、歌を心から楽しんでいた様子が印象的であった。

おわりに

「保育の中で子どもと一緒に歌い、奏でることができるピアノ」は、演奏活動を中心とするピアニストとは違った、他の場では経験できない素晴らしい喜びがあると感じる。そこには「保育者と子どもたち」「子ども同士」だけではない繋がりがある。子どもたちは学んだ歌を家に帰って歌い、兄弟や姉妹、両親、祖父母も一緒に歌ったりする中で「家族とのつながり」が生まれ、世代を超えた繋がりを広げていく。また幼い頃に覚えた歌は、当時の情景とともに記憶に残る。このような繋がりや、あたたかい記憶こそが音楽の最も大切なことではないか。

保育者を目指す学生にとっては、ピアノを通して自分と向き合い、真摯に音楽と向き合い、努力を積み重ねて練習に励み、はじめて「音楽を共有できる喜び」を得ることができるのだと確信する。そのために今回の習得方法を、限られた時間の中でどのように指導するか、今後に向けてさらに研究が必要であると考えます。

保育者自身がピアノを演奏できる喜びを感じ、音楽を楽しみ、子ども達とその楽しさを共有し、音楽の素晴らしさを伝える人となってほしいと願う。

引用文献

- 1 財団法人ヤマハ音楽振興会音楽研究所編『音楽は子どもに何を与えられるか 心の成長に
欠かせない音楽教育』ヤマハミュージックメディア, 2000 年, pp.92-93(中略)
- 2 轟千尋『いちばん親切な楽典入門』新星出版社, 2018 年, p.11
- 3 山岸麗子『あたまで弾くピアノ 心を表現する手段』音楽之友社, 1986 年, p.125
- 4 前掲 2, p.44
- 5 前掲 3, p.39
- 6 坂田おさむ『保育で使えるこどもの歌 230 曲』リットーミュージック, 2017 年, p.274
- 7 前掲 2, p.53
- 8 神原雅之・鈴木恵津子編『改訂-幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』
教育芸術社, 2018 年, p.102
- 9 前掲 2, p.55
- 10 音楽教育研究協会編『幼児教育・保育士養成のための幼児の音楽教育 音楽的表現の指
導』音楽教育研究協会, 2008 年
- 11 前掲 6
- 12 前掲 10, p.131
- 13 前掲 10, pp.166-167
- 14 前掲 10, p.137
- 15 前掲 6, p.34
- 16 前掲 6, p.94
- 17 前掲 10, p.136
- 18 前掲 10, p.167
- 19 前掲 10, p.155
- 20 前掲 10, p.132
- 21 前掲 2, p.59
- 22 前掲 2, p.60
- 23 前掲 10, p.151
- 24 澤田まゆみ「保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か」新島学園短期大
学紀要第 33, 2013 年, p.63
- 25 前掲 2, p.89
- 26 前掲 10, p.84
- 27 若松正司『若松正司の音楽セミナー コードのしくみ 1』音楽之友社, 1988 年, p.21
- 28 前掲 10
- 29 前掲 2, p.119
- 30 前掲 2, p.120
- 31 前掲 2, p.130
- 32 長田暁二編『日本抒情歌全集 I』ドレミ楽譜出版社, 1986 年, pp.126-127
- 33 前掲 10, p.156

34 ジョルジ・シャンドール『シャンドールピアノ教本 身体・音・表現 岡田暁生監訳』春秋社, 2005 年, p.222

参考文献

矢田部宏編『年齢別 12 ヶ月 カンタンに弾けてゴージャスに聞こえるピアノ伴奏譜 こどものうた 154』ひかりのくに株式会社, 2010 年
阿部直美『保育のピアノ伴奏 子どもの大好きなうた 150 曲』日本文芸社, 2011 年
馬場マサヨ『目からウロコのピアノ奏法』ヤマハミュージックメディア, 2012 年
馬場マサヨ『目からウロコのピアノ脱力法』ヤマハミュージックメディア, 2018 年

謝辞

本研究の作成にあたり、ご協力いただきました「今宮幼稚園」(京都市北区紫野)の岸省子園長先生に深謝いたします。岸園長先生には適切な助言を賜り、また保育見学、アンケートにご協力頂いた教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。